

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高山市立 おひさま教室		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境 ・療育室の広さに限りはあるが、環境を整えることで十分な運動遊びができるよう工夫している。	・大型遊具の設置場所に配慮したり、十分な運動遊びを楽しむことが出来るようにしている。療育室が広すぎないことで、周囲に視線が移りにくく、療育活動に集中しやすい。	・身体を動かす遊びは、発達支援のなかでも重要である。継続的にダイナミックな活動ができるよう遊具の設置を工夫する。
2	適切な支援の提供 ・支援前・支援後に個別支援計画に基づき、支援内容や役割分担について話し合いをしている。 ・職員同士でこどもの姿や成長について共有し、次の支援へと繋げている。	・定期的に利用児の担当を交代し、児の状況を共有している。 ・職員間で利用児のアセスメントや教室全体の課題等を共有している。	・職員間での話し合いの時間を確保する。 ・こどもの発達支援に関する研修等の参加により、さらなる支援力の向上を図る。
3	関係機関との連携 ・連携して支援を行える体制が整っている。	・併設の保育園との情報共有や、園での姿を日常的に観察することで共通認識ができています。 ・リハビリでの様子をカンファレンスで聞くなど、専門的な意見を聞いたり、情報共有を行っている。	・関係機関との共通認識を深めることで、利用児のさらなる支援に繋げる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	適切な支援の提供 ・専門的な対象児のアセスメントや評価が難しい。	・アセスメントや評価が、担当職員の主観によるものが大きい。	・必要時に発達検査の実施や多職種による分析や評価の場をもち、偏りのない分析評価とする。
2	保護者への支援 ・保護者同士の交流の場が少ない。	・保護者会が存在していない。 ・保護者同士の交流の場の開催希望がわからない。 ・併設園在園中の療育で保護者同士会う機会が少ない。	・今後、必要に応じて親子療育等の保護者支援の開催について検討していく。 ・事業所保護者評価で、保護者同士の交流のニーズを把握する。